



AMUSE

年報

第5号 2021.3.31



旭川医科大学外科学講座教育支援機構



目 次

教授挨拶	1頁
2020年度 AMUSE運営体制	7頁
2019年度 収支決算報告	8頁
2020年度 AMUSE事業報告	9頁
2020年度 AMUSE事業一覧	10頁
AMUSE2020年度を振り返って	10頁
2020年度 メディア掲載一覧	13頁
AMUSE 初期・後期研修医一覧	22頁
AMUSE 学術外科医表彰プログラム	23頁
AMUSE 第2回 外科学講座合同研究討議会	24頁
法人会員紹介	25頁
2020年度 AMUSE新入会員一覧	29頁
編集後記	34頁

コロナ禍の1年を振り返り、この時代のAMUSEの在り方を考える

旭川医科大学 外科学講座教育支援機構 一般社団法人AMUSE 代表理事
旭川医科大学 外科学講座
血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野 教授

東 信 良



皆様、こんにちは。代表理事の東です。

昨年7月に代表理事が初代古川理事から、第二代の私に引き継がれましたが、COVID-19パンデミックの中

であったため、皆様に直接御挨拶もできず、もうすぐ1年が経とうとしております。代表理事としての所信はHPに掲載しておりますので、ご参照ください。

AMUSEはその出発点において、若手外科医のよりよい研修を実現し、外科のさまざまな分野の交流を深めることで診療や研究の質を高め合い、学生との交流も深めて外科の仲間を増やし、結果、志の高い外科医を多く育成して北海道の外科医療の維持・発展に貢献するという精神で創設されました。その根底には、透明性のある組織づくり、分野間交流、大学と関連施設との交流、学生との交流といった「交流・相互理解」がKeyとなっています。

COVID-19パンデミックはこうしたAMUSEの根幹である「人的交流」を揺るがす恐るべき強敵であり、「学生との交流不足によるAMUSE入局者の減少」「盛んに行われていたグラウンドラウンドの激減」「新人紹介機会の喪失」「キッズタウンなどの市民啓発活動の中止」などなど我々の活動が大いに妨げられました。皆が集い、いつもお世話になっている病院職員を招いての忘年会も勿論開催できませんでした。

そうした厳しい環境にあっても、嬉しいことに、いくつか、以下のような出来事があり、AMUSEらしい活動が復活しつつあります。①生体腎移植：順調に症例を重ねており、移植外科と血管外科などのチームワークの賜物であって、AMUSEが無ければおそらく旭川医科大学病院が実現できなかった大きな成果である。②グラウンド

ラウンド再開：血管外科と消化器外科を含む多診療科で治療した症例が続き、そのうちの1例をグラウンドラウンドでAMUSEの皆様および病理や院内の多診療科で共有できたこと、③研究討議会：多くの学内研究者が集い、また学外AMUSE会員がZOOMで参加して、分野を超えて有意義なディスカッションができたこと、④若手研究実績表彰では、例年以上に多くの若手がしのぎを削る評価を得て、論文作成や学会発表へのモチベーションが格段に向上してきていることなどが挙げられます。また、AMUSEのHPの更新が頻回に行われており、現在の引きこもりがちの状況下では特にこうした発信力が問われる中、大変頑張ってくれていることに敬意を表します。HPをみると、関連施設に出かけて行って小児外科領域の先端手術を行ったという例も掲載されており、関連施設との交流という重要な行動がそれぞれの分野で行われてゆくきっかけになればと願うところであります。

一方、COVID-19パンデミックという未曾有の危機は、人の本性を明らかにし、医療者としての倫理観、教育者としての在り方を露わにしました。正解の分からない手探り状態の中でしたので、判断は極めて難しい状況ではありましたが、COVID-19は何度も我々医療者や病院や大学を管理するものに対して対応を迫りました。こうした時、我々はどうか判断し、どうか行動すべきか、それは、どのような教育を受け、どのような環境で学んできたか、尊敬できる先輩や師に巡り合えたか、日々の診療で真摯に患者の命と向き合ってきたか、自由に意見交換をして自分で判断する力を養い、他者と議論できる環境にあったか、それとも、残念ながら上司に意見を言える環境でなかったかといった医師育成環境が大いに影響しているように思います。私は医療安全管理部長を拝命して、いろいろな診療科のインシデントやアクシデントをみていますが、その診療科の風土や医師らの倫理感のようなものが透けて見えてしまいます。しかし、その風土を変えるのは至難の業であることも感じております。目の前の診療での危機、あるいは、もっと大きな旭川の医療の危機といったものに直面したとき、どうか行動するか、それは、いろいろな複雑な因子、周囲との関係性、損得・利害を度外視して、正しいと思える行動をとれる、そうした医師を育てなければならないことを、改めて我々に教えてくれたのも、この

COVID-19の重要な産物であったかも知れません。

これからようやくリアルな臨床実習が再開され、ワクチン接種が始まり、時代はwith Corona, post Coronaの時代に移り変わってゆくでしょう。学生との出会いを大切に、また、この1年で培ったweb会議やYoutube動画配信などのノウハウも活用して、情報発信を活発に行ってゆきましょう！透明性のある、自由にアイデアを言える場所に優秀な人材が集まると信じております。

新年度のテーマは「**透明性と情報発信!**」、このテーマに向けて、新たなスタイルでより良いAMUSEを皆さんでつくっていきけるよう、努力してまいります。何卒よろしくご願ひ申し上げます。

外科医として伝えてきたこと、 そして、伝えたいこと

旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植外科学分野 特命教授
古川 博之



私が、旭川医科大学、外科学講座消化器病態外科学分野(旧第2外科)の教授に就任したのは、11年前の2010年1月5日のことでした。100年続く企業はそれなりの理念を掲げていると言われてい

ますが、それは医局も同じであろうと、まず教室の標語を考えました。そして、「和気藹々」と「切磋琢磨」の2つの標語で出発することとしました。当時は、医局員も13名と少ない上、消化管グループと肝胆膵グループの仲は決していい状態ではありませんでした。少数グループで争っても何も生まれません。その中から、「和気藹々」という標語がでてきました。また、医局員が少ないこともあり、手術だけこなすのが精一杯の状態ではありましたが、大学である以上、研究や論文作成にもいづれ取り組んでいかないといけないことから、将来を見据え、お互いを磨くため、「切磋琢磨」を2つ目の標語としました。

同時に、消化器外科の医療を行うにあたっての目標として、1) 医局員の増加、2) 内視鏡手術の増加、3) 肝移植の施行の3つを掲げました。

1) 医局員の増加については、元々、外科医全員

が疲弊している中で学生が入局するすべもない状態でしたので、2010年の秋に関連病院と交渉して大学に人を集めることとし、北海道大学第1外科からは谷口先生に応援に来ていただき、2011年度からは17名体制となりました。2) 内視鏡手術の増加については、国内留学していた山田理大先生、浅井慶子先生が2012年に、2013年に相次いで帰局したことで、それまで20~30%であった腹腔鏡手術の割合が一気に80%まで上昇しています。

3) 肝移植については、前述の谷口先生に加えて、北海道大学から永生高広先生、内田浩一郎先生を派遣していただいたこともあり、2011年10月に第1例目の生体肝移植を行うことができました。このように2) 内視鏡手術の増加、3) 肝移植の施行については道筋がつかいましたが、1) 医局員の増加については解決法が見えない状態が続きました。

そんな中、2012年9月、第1外科東信良教授の就任祝賀会に私が呼ばれ、最後の挨拶で外科統一の話を持ち出しました。本学の外科講座は旧第1外科と旧第2外科の2講座よりなっていました。それぞれ独自の研修システムをもっており、学生や研修医から不満が多いという問題をあげました。そしてそれ以降、この問題を解消すべく、東教授、紙谷教授と会談を重ね、2015年4月に外科統合をはかり、2016年4月には全国で初めてAMUSE(旭川医科大学外科教育支援機構)として法人化を図りました。外科を7分野の臓器別編成とし各分野に教授を配し、すべてがAMUSEの理事として学外理事とともに運営を行っており、学生や研修医の入会が、毎年6~9名と飛躍的に増加して来ました。皆様にとっては、よくご存じの経緯ではありますが、消化器外科教室の目標であった1) 医局員の増員がようやく達成されつつあります。「つつあります」というのは、私が教授時代に入局あるいは入会したものが本当に一人前の外科医になって増員と言えるようになるためには、15~20年の年月がかかるためです。したがって、AMUSEの本領をみるのは今から20~30年先であろうと考えています。

さて、最初に掲げた標語の話に戻ります。「和気藹々」と「切磋琢磨」の2つの標語ですが、その後、「和気藹々」については、消化管グループと肝胆膵グループのわだかまりの1つの原因が緊急手術(消化管穿孔など)症例の消化管グループへの偏りであったこともあり、救急で担当した医

師が肝胆膵グループであっても手術を担当するように変更しました。その後、これらの不満は解消されていきました。「切磋琢磨」についても、その後、ブタを用いた肝移植を開始し、移植実験への道筋がつき、2014年に松野直徒先生が赴任して、灌流保存の実験を開始して、実験の幅も広がり、多くの若手医局員が実験に取り組んで、論文を量産できるようになり、これらの実験から学位を取得するものも増加しており、これらの研究を契機に「切磋琢磨」という体制ができつつあります。

その後訳あって、「和気藹々」と「切磋琢磨」の標語に「至誠惻怛」を加えました。「至誠惻怛」の至誠とは、まごころを尽くすことであり、惻怛はいたみ悲しむと言う意味です。どうして、その標語が加わったかは、以下のようなことがあったからです。そのころ、医局の中にどうしてもアメリカに行って、移植の臨床をやりたいと言う医師がおり、アメリカでの医師免許を取得するためにUSMLEという外国人向けのアメリカの国家試験資格を取ることを希望していました。彼は、USMLEの受験勉強のために、臨床の負担を減らしてほしいと私に言ってきました。私は、個人の都合で臨床の負担を減らすことは他の人の負担が増えるのでできないと突っぱねたのですが、他の医局員が彼の負担を減らしてあげて欲しいということを私に言ってきたのです。結局、彼の臨床負担を他の医局員が引き受ける結果となり、USMLEについてもその年は不合格でしたが、数年後にパスすることができました。彼には、「医局員には足を向けて寝れないな」などと冗談で言った覚えがありますが、それほど他の医局員に借りをつくったにもかかわらず医局員たちは許してくれたのです。そのとき、感じたのは医局員の懐の深さであり、これが「惻隱」に通じるものと思ったのです。



こうして、むしろ医局員から教えられるように「至誠惻怛」を3つめの標語として加えたのでした。その後は、「和気藹々」「切磋琢磨」「至誠惻怛」が、我々の医局での3標語となりましたが、AMUSEの興隆とともに、今、標語について知る人は少なくなっています。

さて、私は、2021年3月一杯で、旭川医科大学を退職することになりました。経緯は、皆さんもご存じの通りですが、ここでその話はしません。私が最後に言いたいことは、医師の倫理感の大切さについてです。私は、神戸大学卒業後、天理よろづ相談所病院（以下、天理病院）で研修を受けました。今から40年も前のことですが、その当時、大学外で研修することは非常にめずらしいことでしたが、それでもスーパーローテート方式をとって全国から研修医を集めている聖路加国際病院や沖縄中部病院などがありました。天理病院もその一つであったのですが、「総合診療」という言葉の発症の地でもあり、当時ではめずらしく、その総合診療をレジデントの教育の中心に据えており、総合診療病棟で働く中心がレジデントでした。1975年に天理病院のレジデント制度を開始するにあたって、喧々諤々の議論があったようですが、「病気ばかりを診ずに、病人を診よ」「全人的医療」というような方針から「総合診療」に行き着いたとという経緯があったそうです。その発想の中心にいたのが、3代目院長であった柏原貞夫先生でした。柏原先生は外科医であったこともあり、幸運にも私は先生の直接外指導を受けた最後のレジデントとなりました。それから、30年ほど経った2012年にレジデントの同窓会が開催されましたが、その時手渡されたのが93歳になろうとする柏原貞夫先生からレジデント同窓生に対する手紙でした。その中の一文に「ところで日本の医療は少なくとも倫理的な面でかなりの困難に直面すると思われます。その中で、真実の医療を実践することの難儀さは想像に余りますが、どうか皆様自己の信条を大切に守られ、社会からはもちろん、何より病む人々から尊敬される「医人」としてご健康の日々を送られますよう祈念いたしております。」(2012年7月22日 93歳を目前にして柏原貞夫)とありました。この手紙を見た当時は、その意味がピンとこなかったのですが、今はそれがはっきりわかるようになりました。医人とは高い倫理感をもつ、すなわち「医道」を貫いている

医師のことだということが、そしてそれを我々が実践していかなければならないということが(図)。

旭川医科大学では、2019年に3人の教授が解雇されるか、または退職しています。それぞれの教授については能力に秀でたものがあったのですが、金銭等に関係する倫理感が問われる問題による解雇・退職でした。2020年から新型コロナウイルス感染症という危機的な状況の中でも、倫理的な問題が浮き彫りになりました。助かるはずの人間を助けるのが我々の使命であるにもかかわらず、自分たちは安全なところに身をおきたいとか、クラスターが起これば資金ショートするとか、医師としての倫理感の欠如が明らかとなったのです。

最後になりましたが、AMUSEの皆さん、特に若手外科医の皆さんがこれからも「医道」を貫いて行かれんことを、そして、そのことによって、AMUSEのメンバーが北海道、そして日本に羽ばたき、日本の医療を変える原動力となることを信じています。



図：「医道」 平田鳥閑の書による
(本学の図書館に所蔵)

今年度の目標

旭川医科大学 外科学講座
消化管外科学分野 教授

角 泰 雄



旭川医大に着任して3回目の春を迎えます。昨年1年間を振り返り、今年度の消化管外科学分野の目標について述べたいと思います。

昨年1年間は、新型コロナウイルスが大きく影響した一

年でした。北海道で2月から始まったウイルス感染、それに伴う患者さんの受診控えの影響と思われる高度局所進行癌の増加など非常に厳しい一年でした。また、11月に起こった2つの病院のクラスターにより、一時旭川のがん医療は危機に直面する状況もありました。その中で、スタッフを含めた皆の努力でなんとか乗り切ることができました。来年度も、これまで以上にスタッフ一同鋭意努力を怠ることなく頑張っていきたいと思っています。

各治療グループについての報告ですが、上部消化管グループは長谷川・大谷の2名が中心となり、食道癌・胃癌を中心に精力的に手術をこなしています。臨床面については、食道癌・胃癌を中心とした上部消化管は昨年を上回る手術件数でした。特に北海道で異常な状態となっている食道癌手術に関しては、積極的な胸腔鏡下手術の認知度が増した結果、昨年を大きく上回り、全国的に減少傾向にある胃癌手術も昨年同様の件数を維持するなど、また、大谷先生を中心とした周術期の栄養に関する論文・発表もアクセプトされ研究面においてもがんばっています。今年度は、スタッフとして北健吾先生が大学に戻ってきますので3名体制とし、さらなる手術件数の増加に加え研究の推進にも邁進していってほしいと思っています。

下部消化管グループは、庄中・谷・武田(大学院生)を中心に大腸癌に対する臨床・研究を行ってきました。臨床面におきましては、新型コロナウイルス感染の影響による受診控えの影響と思われる切除不能大腸癌が例年と比べて増加しており、原発巣切除件数は若干減少しましたが全大腸癌件数は例年とほぼ同数となっております。特に局所進行直腸癌増加に伴い骨盤内臓全摘症例も増加しており、他科とのコラボ手術も増えております。また、ロボット支援手術に関しましては、昨年のうちに50例を突破し、今年中に100例到達しそうな感じです。研究面におきましては、8K内視鏡に関する基礎実験データがSurgery Todayにアクセプトされました。鏡視下手術のトレーニングに関するデータをはじめ、いくつかの研究結果も発表できそうな感じで、ようやく大学らしくなってきたように感じます。

手術機器などは、ほぼ揃いましたので最新の道具を用いた手術を行い、その結果を世に出していく段階へとステップアップしていきたいと考えて

います。

本年度も医局員一同、鋭意努力していく所存でありますので、よろしく願いいたします。



古川博之教授 ご退官に寄せて

旭川医科大学 外科学講座
心臓大血管外科学分野 教授

紙谷 寛之



旭川医大における外科学講座の統合、そしてAMUSE発足にご尽力された古川先生が今春でご退官となります。古川先生との思い出を感謝の念を込めて振り返りたいと思います。

私は2014年3月に着任いたしました。ですので、古川先生とは7年間ともに働いたこととなります。着任当初、すでに古川先生と東先生との間で旧第一外科と旧第二外科を統合し、新たな体制とすることは決まっておりました。私を含めた3教授体制での船出を待っていたところでした。私としても外科学講座統合には全く異論はなく、極めて順調なスタートとなりました。記念式典を学長、病院長、そして看護部長もお招きして小講堂で行ったことは昨日のここのように思い出されます。

私個人にとっても、統合された外科学講座で働くことはありがたいことでした。私は32歳でドイツに渡ってからは日本でのキャリアを積むことなく、42歳で本学に着任いたしました。当初は旭川医大の勝手も分からず心細く思っておりましたが、古川先生と東先生という人格者で包容力のあ

る兄貴分の先生方に支えられ、若輩者であるにも関わらずスムーズに旭川医大に根を張ることができました。

しかし、外科学講座の統合といっても、看板の架け替えだけに終わるのでは意味がありません。そこで、医局組織を一般社団法人として統合し、スケールメリットを生かした医局運営、人材発掘・育成ができないものかと考え、古川先生、東先生と3人で相談に相談を重ねました。先行事例として北大産婦人科に注目し、古川先生とともに北大産婦人科前教授である櫻木先生を訪問したこともありました。そして、行政書士の堂下さんとも議論を重ね、2016年にAMUSEが発足することとなりました。また、2018年には角先生も仲間に加わり、AMUSEはさらに発展することとなりました。

AMUSEの理念として①学生に広い入り口を提示することで外科を志す若者をより多く募る、②外科の中での専攻の垣根を低く保ち、関連病院も含めた有機的な教育体制を構築し、優秀な外科医を育成することで北海道の地域医療に資する、③関連病院のサポートを受け学術活動を奨励し、次世代を担うAcademic surgeonを養成するとともに世界レベルの研究を行い旭川医大に貢献する、という3つがあります。古川先生は小説「移植医たち」のモデルとなったように、ピッツバーグ大学で長年にわたり世界最高の肝移植チームの屋台骨を支えてこられ、北大に転籍されてからは日本における肝移植の普及・発展にご尽力されてこられました。2010年に旭川医大第二外科3代目教授としてご就任されましたが、AMUSEという高い理念を掲げる先進的な取り組みが古川先生という稀有な人材によるリーダーシップのもと発足したのは、運命の必然でもあったかと思っております。

古川先生とは病院内でも何度も一緒に仕事をさせていただきました。教授、そして後には病院長として、非常に多忙な日々の中、何度もICUや病棟に足を運んでおられた姿が印象に残っています。また、私は他科の手術を見学するのが趣味ですが、長時間集中して手術に没頭しているお姿を拝見し、外科医としてのあるべき姿を教えてくださいました。古川先生が率いるチームの皆さんには今まで何度も助けていただきましたが、みな患者を救いたいという情熱を持ちつつ、協調性に優れた素晴らしい仲間です。これも古川先生のご教育の

結果です。私も、小さいながらも一つのチームのリーダーとして見習いたいと思っております。

古川先生は2018年に病院長にご就任されてからは旭川医大病院の労働環境改善のため、獅子奮迅のご活躍をされてこられました。非常に親しみやすい病院長として、コメディカルの方々にも親切丁寧に接する様子を拝見し、リーダーとはかくあるべしと学びました。また、昨年からのコロナ禍では、先頭に立ち旭川医大病院のみならず、旭川市、そして道北・オホーツク海沿岸地方の地域住民のためご尽力されました。それだけに、今回の不当な病院長解任は残念でなりません。

みなさんご存じと思いますが、私は旭川医大の正常化を求める会に発起人の一人として深くかかわっています。今までも、現体制に対する違和感はずっと持ち続けてきましたが、尊敬する古川先生がこのような処分を受けることになり、違和感は一時的な不信感へと変わりました。今後旭川医大がどうなっていくのかは不透明ですが、最上府たるべき大学の矜持を保つために、今後も間違っていることは間違っているといえる勇気を持ち続けたいと思います。

このような形で古川先生を送り出すのは本当に残念です。しかし、我々には古川先生が築き上げ、発展させてきた外科学講座、そしてAMUSEをさらに進化させ、次世代につないでいく責務があります。古川先生から学んだことを忘れず、今後も一同精進してまいります。今まで本当にありがとうございました。

権限のないリーダーが国内初の多施設臨床共同研究を主導して

旭川医科大学 外科学講座 肝胆膵・移植外科分野
移植医工学治療開発講座 特任教授

松野直徒



2021年今年もAMUSEの一員として、全国レベルの良き外科医を育てたいと思っております。AMUSEの発表会などでお話ししましたように私が研究代表者となっている旭川で開発され、製作し、

ECMOで有名になった企業の酸素化回路付きの移植臓器（今回は腎臓）灌流保存システムを用いた多施設共同（前向き介入）臨床試験（本学倫理委員会承認に続いて、東北大学、虎の門病院、東京医大、藤田医大の倫理委員会承認）の国内初マージナルドナーからの灌流保存、献腎移植が2020年8月国内第一例が東北大消化器外科で行われました。その後、コロナ禍にもかかわらず1月までに5例の献腎移植が行われ患者さんは10年以上に及ぶ透析から離脱し、退院しております。中には、2つの腎臓のうち従来法である単純冷却の腎臓でひとつ腎臓を移植して、その間長い時間、灌流保存してからあとで移植したもう一つの腎臓のほうが術後透析から早く離脱したとか、心停止80分後蘇生したドナーからの腎臓が、灌流保存で成功したなど驚くべき臨床成績が報告され、各施設で論文を寄せてもらっています。この地方都市で国内初の臨床試験を始めるというのは、予想以上に大変で、協力していただいている北海道庁産業振興課など行政にも感謝。もっとも感謝すべき開発企業の中央精工株式会社（旭川）には、医療機器製造販売業の認可を取っていただき、この旭川発の灌流保存装置について厚生労働省の認証を得る書類申請も今年1月末に申請していただき、現在、審査中です。また酸素化ユニット付き専用回路担当の泉工医科工業も事業承認手続きをする方向と聞いています。すべてがクリアされると製品となります。わたくしのほうは厚生労働省へ、企業とともに保険収載へ向かい、さらに本命の肝臓用還流保存の実験をまとめつつ、臨床試験を準備中です。わたくしはどの施設の上司でもなく、基本的な指示系統は存在しません。研究分担者の医師は、同志です。しかも後輩は参加していますが、みな、一国一城の主です。この臨床試験のコンセプトは、欧米では行われているのに日本ではなぜ行われていないのという発想であり、海外製品よりも、いわば素朴な動機であり、これに賛同した次世代の同志の集まりからスタートしています。この臨床試験を通して、恥ずかしながら知ったことは手探りの先の見えない中、きちんとした目的と手段が必要で、座標軸をもち、熱意と挑戦は道を開く。そして耳を傾けてくれた人に手を合わせるということでした。

2020年度 AMUSE運営体制

事務局 旭川医科大学 〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号
 電話番号 0166-66-2424 FAX番号 0166-66-2425
 メールアドレス asahikawa.amuse1@gmail.com

代表理事 東 信 良 2020年7月9日就任
 理事 古川博之
 理事 紙谷寛之
 理事 角 泰 雄
 理事 北田正博
 理事 松野直徒
 理事 稲葉 聡 (遠軽厚生病院 院長)
 理事 内田 恒 (札幌厚生病院 心臓血管外科 主任部長)
 監事 新居利英 (深川市立病院 副院長)
 監事 平澤 雅 敏
 幹事 長谷川公治・今井 浩二・内田 大貴・庄中 達也・菊地 信介・宮城 久之
 岡崎 智・白坂 知識
 秘書 米谷さとえ・斉藤 和恵
 ※赤字は2020年度就任

AMUSE法人会員

法人会員施設 40施設 (2019年度 39施設) ※入会順に記載

JA北海道厚生連 旭川厚生病院/JA北海道厚生連 遠軽厚生病院/JA北海道厚生連 札幌厚生病院/JA北海道厚生連 美深厚生病院/医療法人 中島病院/医療法人 唐沢病院/医療法人ひまわり会 札幌病院/医療法人回生会 大西病院/医療法人健康会 くにもと病院/医療法人社団 ふらの西病院/医療法人社団幾晃会 木原循環器科内科学科/医療法人社団元生会 森山病院/医療法人社団康幸会 かわぐち心臓呼吸器病院/医療法人社団慈成会 東旭川病院/医療法人社団Shindo 旭川リハビリテーション病院/医療法人仁友会 北彩都病院/医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院/医療法人徳洲会 帯広徳洲会病院/公益財団法人北海道対がん協会 旭川がん検診センター/公立芽室病院/国民健康保険町立和寒病院/国立病院機構 旭川医療センター/国立病院機構 帯広病院/社会医療法人 製鉄記念室蘭病院/社会医療法人孝仁会/社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院/小林病院/上富良野町立病院/深川市立病院/天塩町立国民健康保険病院/八雲総合病院/比布町立びっぶクリニック/美瑛町立病院/名寄市立総合病院/留萌市立病院/医療法人社団稲仁会 旭川脳神経外科循環器内科病院/医療法人札幌ハートセンター 札幌心臓血管クリニック/社会医療法人禎心会 札幌禎心会病院/医療法人社団慶友会 吉田病院/医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院 (2020年度より賛助会員より正会員へ変更)

賛助会員施設 4施設 (2020年度 4施設) ※入会順に記載

医療法人社団真佑会 旭川消化器肛門クリニック/医療法人 治恵会 北見中央病院/医療法人社団翔嶺館 音更宏明館病院/医療法人社団緑が丘クリニック

合 計 43施設 (2020年度 43施設)

※赤字は2020年度加入

AMUSE個人会員

名誉会員 2名
 正会員 146名 (2020年度 新入会会員 13名)
 賛助会員 4名
 合 計 152名

(2021年1月現在)

2019年度 収支決算書

収入の部

(単位：円)

科 目	予算額①	決算額②	増減②-①	摘 要															
1. 会費	31,120,000	32,250,000	1,130,000	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>法人正会員(過年度分含む)</td> <td>39施設</td> <td>24,000,000</td> </tr> <tr> <td>法人賛助会員</td> <td>4施設</td> <td>400,000</td> </tr> <tr> <td>正会員(会費10,000/月)</td> <td>62名</td> <td>7,260,000</td> </tr> <tr> <td>々(会費10,000/年)</td> <td>61名</td> <td>590,000</td> </tr> <tr> <td>次年度分会費(前受金)</td> <td></td> <td>10,000</td> </tr> </table>	法人正会員(過年度分含む)	39施設	24,000,000	法人賛助会員	4施設	400,000	正会員(会費10,000/月)	62名	7,260,000	々(会費10,000/年)	61名	590,000	次年度分会費(前受金)		10,000
法人正会員(過年度分含む)	39施設	24,000,000																	
法人賛助会員	4施設	400,000																	
正会員(会費10,000/月)	62名	7,260,000																	
々(会費10,000/年)	61名	590,000																	
次年度分会費(前受金)		10,000																	
2. 負担金	2,200,000	2,183,000	△17,000	参加費(総会、BBQ大会、AMUSE感謝の会)															
3. 寄付金	0	90,000	90,000	AMUSE年報企業広告(2019年度予算案では廃目だったが収入あり)															
4. 雑収入	840,000	817,161	△22,839	ご祝儀、預金利子															
5. 前年度繰越金	12,221,384	12,221,384	0																
合計	46,381,384	47,561,545	1,180,161																

支出の部

(単位：円)

事業費目	予算額①	決算額②	増減 ①-②	摘 要
1. 事業費	22,400,000	17,939,668	4,460,332	
若手外科医リクルート事業	5,000,000	4,990,010	9,990	学生勧誘、合同医局説明会、アドバンス実習説明会、ハンズオン、ウエットロボ親睦会、BBQ大会、学生会等参加旅費、学生旅費
学会・研修関連費	400,000	433,000	△33,000	研究会等の諸会費、指導医講習会参加費助成
広報事業費	1,600,000	1,580,280	19,720	ホームページ維持管理費、AMUSE会報誌発刊
学術交流活性化	5,000,000	2,539,744	2,460,256	SGR招待演者謝金、接待交際費
学会発表支援	6,000,000	5,292,000	708,000	学会参加旅費助成、英語論文校正、論文投稿助成費用等
キャリア形成、貸付事業	1,000,000	0	1,000,000	初期臨床研修医への貸付(スタート支援)、留学費用支援等
AMUSE教育セミナー	300,000	0	300,000	セミナー開催費用
法人主導型リクルートイベント事業	200,000	153,551	46,449	リクルートイベント開催費用
会員福利厚生事業	200,000	165,000	35,000	会員慶弔(結婚・出産・弔事等)
地域社会貢献事業	300,000	424,095	△124,095	市民公開講座の開催、キッズセミナー、TAKEABI
社員親睦関連費用	2,400,000	2,361,988	38,012	医局対抗野球参加費、忘年会
2. 補助費	7,600,000	5,277,920	2,322,080	
主催学会開催準備	3,000,000	104,000	2,896,000	主催学会資金助成
医局運営費	1,500,000	1,004,218	495,782	医局用お茶、飲み物、菓子、食品、洗剤等、その他消耗品、雑費
非常勤講師・医師謝金等	2,500,000	3,866,534	△1,366,534	大学非常勤講師・病院非常勤医師への報酬、交通費・宿泊費等
キャリア形成支援	600,000	303,168	296,832	AMUSE表彰プログラム
3. 会議費	1,150,000	697,570	452,430	
AMUSE総会・新人歓迎会	1,000,000	682,200	317,800	
AMUSE会議費	150,000	15,370	134,630	理事会会場費、交通費
4. 事務費	5,180,000	5,540,503	△360,503	
(1) 事務局費	3,680,000	3,713,718	△33,718	
業務委託費	850,000	843,791	6,209	行政書士、税理士、リコーリース会費回収手数料
事務員給与他	1,500,000	1,679,469	△179,469	事務員給料、交通費、雇用・労災保険料
賃貸料	350,000	336,470	13,530	事務所賃貸料、プリンターリース料
印刷・消耗品費	300,000	239,309	60,691	事務局印刷代、事務消耗品
通信運搬費	300,000	309,605	△9,605	電話料、郵便料他
OA機材購入整備費	150,000	143,310	6,690	ソフト購入等
光熱水費	30,000	24,138	5,862	事務所使用分
備品購入費	50,000	0	50,000	
雑費	150,000	137,626	12,374	振込手数料他
(2) 交際費	1,500,000	1,826,785	△326,785	開院・就任等の祝儀、祝花 各会協賛金等
5. 交際交通費	500,000	708,520	△208,520	学生勧誘接待、外部講師タクシー代
6. 租税公課	100,000	80,600	19,400	道市民法人税均等割
7. 予備費	3,000,000	423,500	2,576,500	
合計	39,930,000	30,668,281	9,261,719	

次年度繰越金 16,893,264 <収入の部>-<支出の部>により算出

2020年度 AMUSE事業報告

AMUSE (Asahikawa Medical University Surgical Educational Support Organization) は北海道、特に道東・道北を中心とした地域の外科医療の安定と発展のために設立された組織です。

具体的な活動として

- ・学生・研修医のリクルーティング活動
- ・若手外科医の活躍の場（論文・学会発表など）への援助
- ・外部講師を招いての高度・先進医療の習得
- ・関連病院との交流を図るイベントの開催
- ・地域への外科対象疾患の啓蒙活動、子どもたちへの啓蒙活動

を行っています。

①SGR (Surgical Ground Rounds)

例年、国内はもとより海外からも著明な講師を招聘し、地方では学ぶ機会の少ない、高度外科医療、先端外科医療を紹介していただいたり、日々の診療のなかでの難しい症例や珍しい症例を紹介し、検討し合う症例検討会等を行います。今年度は1月と3月の2回行われました。

②Wet lab／ハンズオンセミナー

医学生へ外科の基本手技・腹腔鏡や人工血管置換などの手技を経験してもらい、外科へ興味ももてるよう活動しています。今年度はコロナ禍の影響もあり開催できませんでした。

③ブラックジャックセミナー・キッズタウン

ブラックジャックセミナーやキッズタウンなどの、子供たちへの外科医療の啓蒙活動を行っていますが、今年はコロナ禍の影響でいずれも開催できませんでした。来年度以降、また開催できるよう検討しています。

今年度は、コロナ禍の影響もあり開催できない事業がとても多く、もどかしい1年でした。来年度以降は、感染状況も考慮しつつ開催方法を検討しながら一つでも多くの事業を開催できるよう努力していきたいと思えます。



2020年度 AMUSE事業一覧

AMUSE事業計画に則り、下記事業を遂行できましたのでここでご報告させていただきます。

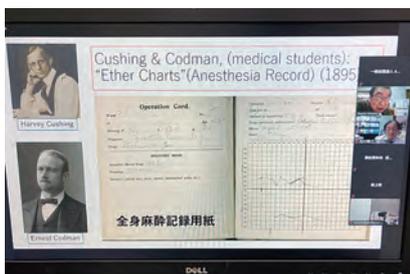
日付	事業内容	開催場所	備考
5月19日	AMUSE オンライン医局相談会 アミュトーク 開講		
6月30日	2019年度AMUSE総会	WEB開催	
7月9日	合同医局説明会	WEB開催	
1月27日	第28回SGR 複数科協力のもと成功した腰椎原発後腹膜腫瘍切除と自家腎移植 症例検討会	WEB開催	血管外科分野主催
3月2日	第29回SGR 小泉俊三先生 「医療の質と外科医：CodmanからChoosing Wiselyへ」	WEB開催	肝胆臓移植外科分野主催

AMUSE2020年度を振り返って

1月27日 SGR



3月2日 SGR



7月9日 合同医局説明会



AMUSE・外科学講座・関連病院・外科医のスキーマ



8月13日ー15日 第120回日本外科学会定期学術集会 学生セッション



研修内容

- 病棟は常に20名前後の患者。全て「キミ」が管理（指導医の万全バックアップ）
- 救急は「キミ」と指導医が対応！
- 手術症例は「キミ」が提示（指導医の熱血指導！）
- 病棟手技は原則「キミ」（上級医監視）
- 手術は「キミ」が主役（腹腔鏡はカメラが主役！）
- 「キミ」の理解度を症例発表会で確認（そのまま文化？）
- 大学の顔は「キミ」 外来で「初診の見方」の指導

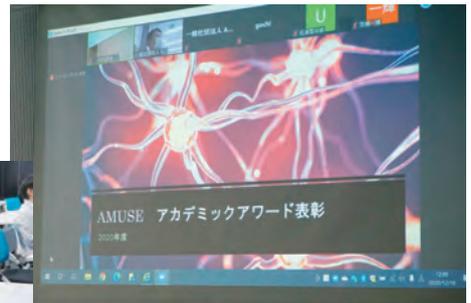
手術は若手が中心です



10月21日 「遠軽厚生病院」にて小児腹膜鏡下鼠径ヘルニア根治術 (LPEC) を施行



12月19日 研究討議会



2020年度 メディア掲載一覧

AMUSEは外科医の育成とともに、医療の発展や地域医療への貢献を果たす目的で日々様々な取り組みを行っております。新型コロナウイルスの感染拡大の最中でも、研究や開発、新天地での診療分野の拡大等様々な取り組みを行っており、その活動が様々なメディアで紹介されました。

下記にAMUSEが関わる活動のなかから2020年1月～12月まででメディア等で取り上げられたものを紹介します。

新聞・雑誌・Webニュース等

日付	掲載誌	内容(タイトル等)
1月	Organ Biology Vol.27 No.1 2020	書評「きみはいのちをつなぐさ」
2月26日	北海道庁ホームページ	北海道科学技術賞受賞
6月5日	NHK NEWS WEB版(北海道)	旭川医大で臓器保存装置の試験へ
6月18日	北海道新聞	旭医大 献腎移植可能に
6月26日	秋田さきがけ	山下太郎顕彰育英会奨励賞
9月9日	北海道新聞	大動脈弁狭窄症 縫わず固定
9月18日	NHK NEWS WEB版(北海道)	移植手術で成果「臓器保存装置」
10月3日	北海道医師会	北海道医師会・北海道知事賞受賞
10月9日	NHK NEWS WEB版(全国)	“臓器保存装置”でひらけるか 日本の移植医療
11月号	北海道経済	旭川医大心臓外科医たちの武者修行
11月22日	十勝毎日新聞	清水赤十字病院に血管外科専門外来新設

テレビ等出演

日付	放送局	番組タイトル	概要
10月14日	NHK	おはよう日本	“臓器保存装置”初の移植手術で成果
10月14日	NHKラジオ第一	Nラジ	臓器保存装置で日本の移植治療広がるか

AMUSE 初期・後期研修医一覧

2021年2月現在、5年目以下のAMUSE会員34名が道内各所で外科専門医取得を目指し研鑽を積んでいます。AMUSE会員の皆様におきましては若手外科医の指導・サポートで大変お世話になっています。今後も御指導・御支援の程よろしくお願い申し上げます。

年次	氏名	所属
1年目	青木 沙弥佳	亀田総合病院
	中坪 正樹	札幌東徳洲会病院
	廣上 翔	旭川医科大学卒後臨床研修センター
	松井 拓郎	旭川医科大学卒後臨床研修センター
	横山 倫之	製鉄記念室蘭病院
	吉野 流世	札幌東徳洲会病院
2年目	伊佐 秀貴	旭川医科大学卒後臨床研修センター
	伊藤 茜	北海道勤労者医療協会中央病院
	氏家 菜々美	製鉄記念室蘭病院
	浦本 孝幸	沖繩徳洲会病院
	島崎 龍太郎	旭川医科大学卒後臨床研修センター
3年目	林 成司	旭川医科大学卒後臨床研修センター
	石堂 耕平	岸和田徳洲会病院
	井原 一樹	小林病院
	片寄 駿	札幌東徳洲会病院
	紅露 大介	札幌徳洲会病院
	瀬戸川 友紀	名寄市立総合病院
	成田 昌彦	旭川医科大学病院
4年目	潮田 亮平	かわぐち心臓呼吸器病院
	大久保 諒	旭川医科大学病院
	柴垣 圭佑	旭川医科大学病院
	高橋 一輝	札幌厚生病院
	広藤 愛菜	北海道循環器病院
	堀川 大介	遠軽厚生病院
	宮本 寛之	釧路孝仁会記念病院
5年目	安達 雄輝	旭川医科大学病院
	大平 成真	旭川医科大学病院
	鎌田 啓輔	江戸川病院
	上杉 優衣	札幌北楡病院
	竹吉 大輔	旭川医科大学病院
	水上 奨一朗	札幌厚生病院
	森山 寛也	製鉄記念室蘭病院
	山本 寛大	旭川厚生病院

AMUSE 学術外科医表彰プログラム

2018年度よりAMUSE学術表彰プログラムが開始されました。1年間の学術活動（学会発表・論文）を評価する試みです。今年も2020年12月19日に行われたAMUSE感謝の会の中で表彰式が行われました。第3回の受賞者は石井大介先生が受賞され、コメントをいただきました。

また、今年度より初期研修医のなかで優秀な成績をおさめた会員への敢闘賞を新設いたしました。

第3回 AMUSE学術外科医表彰プログラム 実績一覧

	入会者名	合計 点数	所 属	大 学 卒業年
1位	石 井 大 介	527	旭川医科大学 小児外科	2012
2位	合 地 美香子	262	旭川厚生病院	2014
3位	國 岡 信 吾	201	旭川医科大学 心臓外科	2015
4位	伊 勢 隼 人	180	旭川医科大学 (デュッセルドルフ大学留学)	2010
5位	大 原 みずほ	160	旭川医科大学 消化管外科	2008
6位	若 林 尚 宏	145	旭川医科大学 心臓外科	2012
7位	鎌 田 啓 輔	118	江戸川病院 血管外科	2016
8位	竜 川 貴 光	100	旭川医科大学 血管外科	2015
9位	石 橋 佳	87	国立帯広病院	2009
10位	栃 窪 藍	73	旭川医科大学 血管外科	2013
敢闘賞	氏 家 菜々美	39	製鉄記念室蘭病院	2019

第3回AMUSE学術外科医 表彰プログラム

小児外科 石 井 大 介

この度はこのような榮譽ある賞を受賞させて頂き、誠にありがとうございます。AMUSE会員の皆様には英文校正費や論文投稿費の補助をして頂き、この場を借りまして感謝申し上げます。AMUSE学術外科医表彰プログラムが設立された時から、受賞が一つの目標でしたので、菊地先生や三宅先生の殿堂入りの先生方がいない中ですが、受賞できたことは非常に嬉しく思っております。指導頂きました宮本先生、松野先生、長年貴重なデータを蓄積して下さった平澤先生、宮城先生のサポートがあつてのことだと思っております。

少子化が進む中、また症例数が限られる道北・道東唯一の小児外科施設ですが、患者さんのことを考えた一つ一つのアイデアを長年続けてこれ

た宮本先生、平澤先生の仕事を一つ一つ形にし、さらにその上に積み上げていきたいと思っています。また今後も臨床と基礎を平行し、臨床研究・基礎研究の両方の論文をバランスをもって取り組んでいきます。

初期臨床研修1年目の旭川厚生病院外科での研修時に、消化器外科庄中先生から「1年に1本は必ず論文を書け。引退するまで書き続けたら、すごい数になるから。」と言われ、書き始めたのが始まりでした。庄中先生は今でもアドバイスを頂き、刺激を受ける先生の一人です。私自身も今年で医者10年目になりますので、後輩たちを積極的にサポートし、刺激を与えられる存在でいられるように日々精進していきます。本当にありがとうございました。



AMUSE 第2回 外科学講座合同研究討議会

昨年度より各分野間での新しい学びや情報共有の場として取り組みを始めた外科学講座合同研究討議会を本年も開催いたしました。こちらもコロナ禍での開催のためZOOMを活用したWEBでの参加を可能とし、多くの先生方より演題発表をいただきました。今後も外科の講座間同士での共同研究などに発展してくれることを期待します。下記はそのプログラムです。

AMUSE 第2回 外科学講座合同研究討議会

2020年12月19日 土曜日
緑ヶ丘テラス会議室・Web 9:00-12:30
ハイブリッド開催

1. 代表理事による開会挨拶
2. 第1部 (座長：齊藤 幸裕 先生)
 - 9:05-9:20 栗山 直也 先生 (血管外科)
演題名：細胞外小胞を介した動脈硬化性疾患発症メカニズム解明、予後予測の検討
 - 9:25-9:45 高橋 裕之 先生 (肝胆膵・移植外科)
演題名：AMUSE合同腎移植プロジェクト
 - 9:50-10:10 小山 恭平 先生 (心臓外科)
演題名：血管と心臓の再生を目指して
 - 10:15-10:30 庄中 達也 先生 (消化管外科)
演題名：消化管外科学講座の研究進捗状況 (2020年)
 - 10:30-10:40 コーヒーブレイク
3. 第2部 (座長：横尾 英樹 先生)
 - 10:40-11:00 宮城 久之 先生 (小児外科)
演題名：AMUSEの一員としての小児外科活動報告
 - 11:05-11:25 合地 美香子 先生 (移植医工学)
演題名：ケルセチンとスクロースを含む保存液を用いたブタ腎臓の自家移植について
 - 11:30-11:45 岡崎 智 先生 (呼吸器・乳腺外科)
演題名：トリプルネガティブ乳癌における、血中腫瘍循環DNAの遺伝子解析と再発マーカーとしての可能性に関する検討
 - 11:50-12:10 石井 大介 先生 (小児外科/移植医工学)
演題名：共同開発した灌流保存装置を用いた過小肝に対する短時間低温酸素化灌流保存の有効性の検討
 - 12:10-12:15 コーヒーブレイク
4. 第3部 アワード表彰セッション (司会：菊地 信介)
12:15-12:30 1位から10位までの表彰 (実績提示)、研修医アワード
5. 講 評
6. 閉会挨拶

法人会員紹介

釧路孝仁会記念病院

社会医療法人孝仁会 釧路孝仁会記念病院

心臓血管外科 部長 木村 文昭

1. 釧路市紹介

AMUSE会員の諸先輩方には、釧路で研鑽を積まれた方もおられるとは思いますが、簡単に釧路のご紹介をさせていただきます。釧路市は、人口約17万人で2020年末に帯広市（17万人）に追い越されてしまいましたが、札幌、旭川、函館、帯広に次いで、道内5番目の市です。医療圏としては根釧地区となりますが、2市、10町、1村からなり、医療圏の人口は約32万人です。釧路といえば、霧が有名ではありますが、気候は「夏期湿潤冷涼、冬期乾燥寒冷」で、春から夏にかけて沿岸部では陸上と海上の温度差や、道東沖で交錯する海流の影響で発生する「海霧」のため日差しのさえぎられる日が多く、平均年間霧日数は、100日前後に達するそうです。私が赴任した当初は、旭川の気候に慣れた身からすると、寒い夏だなあといった印象でしたが、それでも近年の異常気候の影響でかなり夏は暑くなってきております。

2. 病院紹介

心臓大血管外科学分野 紙谷寛之教授のご高配により、2016年7月1日付で、旭川医大から釧路



写真1



写真2

孝仁会記念病院心臓血管外科部長として赴任いたしました。

私が赴任した釧路孝仁会記念病院は、釧路地区を中心に医療・介護サービスを展開している社会医療法人 孝仁会の急性期医療を担う中核病院であり、道東ドクターヘリの基地病院でもあります。（写真1）病床数は232床で、手術室は6室、血管造影室は2室、ICUは12床あり、脳神経外科、心臓血管外科、循環器内科、消化器内科、整形外科、泌尿器科といった標榜科で診療を行っております。2020年9月からは、釧路地区初となるハイブリッドORが稼働を開始しています。（写真2）心臓血管外科は、43床の病床を持っており、この中で心臓血管外科術前後の患者診療をやりくりしております。

3. 心臓血管外科紹介

医療圏人口32万人の根釧地区に、心臓血管外科を標榜しているのは、当院と市立釧路病院の2施設あります。当院では、原田英之名誉院長を筆頭とした札幌医大からの派遣医師の診療チームが、年間450～500前後の手術、約50例前後の開心術を行ってまいりました。しかしながら、札幌医大からの派遣が中止となり私が赴任し旭川医大からの派遣医師によりチームに変更後、徐々に手術数は増加しており、昨年はどうとう開心術のみで年間100例を突破しました。（表）

2017年1月から、AMUSEの後期研修医を派遣して頂けるようになり、國岡、栗山、小林、大久

心臓血管外科症例数

	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
総手術数	533	616	559	575	666
開心術	56	79	96	70	103
TEVAR	6	24	19	19	21
EVAR	21	18	30	43	37
AAA open、ASO	37	37	18	15	46
ASO PTA	73	110	107	139	123
内シヤント造設	107	138	108	113	105
内シヤント PTA	104	114	98	85	120

保、成田、宮本（敬称略）と卒後3年目～4年目の医師がそれぞれ3か月～1年程在籍し当院で後期研修の研鑽を積まれました。（写真3）当院での症例数増加ならびにAMUSEのご高配によって、2021年4月から中津先生が増員として派遣され、待望の3名体制となります。

今後さらに手術症例を増やし、たくさんの方の後輩の先生方に来て頂けるような関連施設となるように頑張っていく所存です。

今後もしよろしくお願いたします。



写真3

コロナ禍における地域医療 ー院内感染を経験してー

JA北海道厚生連 遠軽厚生病院

院長 稲葉 聡

3月10日夜、この原稿を書いています。ワクチンの先行接種がやっと始まりましたが、新型コロナの院内感染や老人施設での集団発生は収まらず、ある意味では北海道内は未だに同じ状況が続

いているとも言えます。わが故郷釧路市の病院からは看護師の派遣要請がありました。昨年つらい経験をした当方としては、お断わりするのは忍びなく、短期間ではありますが看護師派遣を決めたところでした。

さて、一昨年末に中国武漢から発生した新型コロナウイルス感染は日本全国に広がり、北海道の一地方病院である当院へもその波は襲ってきました。昨年2月に北見市で展示場クラスターが発生し、当院で初めて患者さんの入院を受け入れました。その後もオホーツク圏域の感染症指定病院間で連携しながら入院対応を続けているなか、4月中旬に衝撃の“院内感染”を経験することになりました。当院の院内感染は、職員12名・患者5名で合計17名に及びました。また、当院退院後に発症した患者さんが生活する近隣の障がい者支援施設にも感染が波及してしまいました。対面の外来診療は電話診療に切り替え、新規の入院・予定手術は原則休止としました。しかし地域唯一のセンター病院としては、すべての診療を止めることはできません。救急車の受入れも制限しましたが、重症患者は感染対策を万全に行いつつ受け入れました。緊急を要する手術や重症患者の入院にも同様に対応しました。

最低限の救急対応を果たしつつ、院内感染の収束に努めました。当該病棟では、一患者・一行為毎にPPEを取り換えて対応しました。日に何度も何度もPPEを着脱して働く看護師には本当に頭が下がりました。不足する医療資源のなか、袖付きエプロンやフェイスシールドも職員総出で手作りしました。その甲斐あって5月初旬以降院内感染者は発生せず、6月5日に終息宣言を出すことができました。今となれば意外と短期間で収束したものだと思いますが、当時とはとても長く長く感じました。連日PCR検査の陰性が続き、収束したかと思いついた頃に予期せぬ職員3名の感染が発生したときは、院長室に戻り“気合”を入れ直して感染対策室に向かったことが遠い昔のことのようです。

当院に端を発した障がい者施設のクラスターに対しては、軽症者はそのまま施設内で対応することになりました。院内感染の対応に精一杯で、施設での医療活動に参加できなかったことは誠に残念で、悔しい思いをしました。災害時対応に準じて、チームを組んで施設内に寝泊まりして診療に

当たって頂いた北見赤十字病院には感謝の言葉が見つかりません。

当院外科としても予定手術が行えず、辛い日々が続きました。ちょうど院内感染が発生した時期にNACが終了した食道の手術は大学にお願いしました、ありがとうございました。その後、幸い手術件数は増加し前年並みまで回復しました。今年に入ってから、逆に旭川厚生病院で手術予定だった患者さんの手術も行いました。これからもコロナ対策はまだ続きます。外科医も発熱外来や新型コロナの入院対応に参加しています。

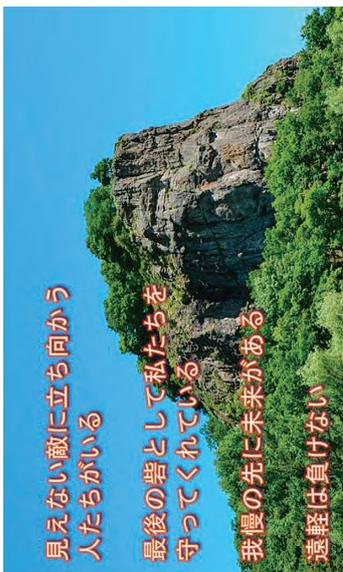
この間、地域住民の皆さんからたくさんの応援メッセージや貴重な物資をいただきました。院内

感染と闘う我々にとって大変大きな力になりました。遠軽町が企画した応援動画やスキー場のブルーライトも忘れることができません。また、AMUSEの関係者からも心配するメールや激励の電話をたくさん頂きました、本当にありがとうございました。

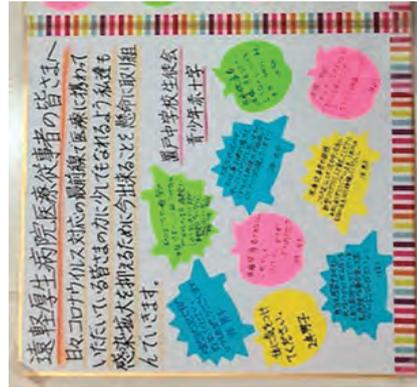
4月からは堀川大介先生と交代で島崎龍太郎先生が加わり、浅井慶子先生を中心に唐崎秀則先生、西越崇博先生が支えとなって遠紋地区の外科を担っていきます。地域に支えられていることを心から実感した1年でした。これからも地域医療の核として、AMUSEの一員として心新たに頑張っていきたいと思っています。



袖付きエプロンやフェイスシールドを自作する職員たち



2020 05 27 遠軽厚生病院応援プロジェクト レワーグ演奏



たくさんのエールをいただきました

2020年度 AMUSE新入会員一覧

AMUSEはこの1年間に13名の新規会員、1名の賛助会員を迎え入れました。
みなさんが各所で活躍しています。新入会員は下記のようになっています。
今後共よろしくお願ひ申し上げます。

※卒業年順・敬称略

入会者名	所 属	大学卒業年
唐 崎 秀 則	遠軽厚生病院	1993
藤田 きしゅう	札幌禎心会病院	2000
白 坂 知 識	旭川医科大学 心臓外科	2004
宮 入 聡 嗣	旭川医科大学 心臓外科	2008
市 川 洋 平	旭川医科大学 血管外科	2014
瀬戸川 友 紀	名寄市立総合病院 心臓血管外科	2018
松 井 拓 郎	旭川医科大学 卒後臨床研修センター	2019
中 坪 正 樹	札幌東徳洲会病院	2020
吉 野 流 世	札幌東徳洲会病院	2020
青 木 沙 弥 佳	亀田総合病院	2020
廣 上 翔	旭川医科大学 卒後臨床研修センター	2020
横 山 倫 之	製鉄記念室蘭病院	2020
水 島 大 地	旭川医科大学 卒後臨床研修センター	2020

賛助会員入会者	所 属	大学卒業年
河 端 聡	医療法人社団 緑が丘クリニック	2009

遠軽厚生病院

唐 崎 秀 則

昨年の7月から遠軽厚生病院でお世話になっている唐崎秀則と申します。

私は旭川医大の15期生で、卒後旧第二外科に入局しました。第一病理で学位を取得後、栃木県がんセンターでのレジデンス、旭川厚生病院をへて2005年～2011年の間、大学の肝胆膵チームで諸先輩からのご指導をうけました。その後2年間の富良野協会病院勤務をへて昨年6月まで札幌東徳洲会病院で勤務していました。このたび前職から

離れるにあたり遠軽での勤務をお許しいただきました。



遠軽は20年前に大学院卒業後はじめて勤務した思いで深い病院で、外科医としての初めての手術のほとんどを経験させていただきました。記念すべき初PDを矢吹名誉院長のご指導の下で経験したのも遠軽でした。

微力ながら地域のお役に立てるよう努力したいと思います。

札幌禎心会病院

藤田 きしゅう

卒後20年間、国内外の施設を転々として参りました。紙谷教授の御厚意におすがりし、2020年1月に同門に加えて頂き、4月より札幌禎心会病院にて、大谷先生に御指導頂き血管内治療を修練しております。手術に携わっているのも、教授ならびに医局のお陰と深く感謝致しております。どのような形であれ、医局に少しでも貢献できるよう精進して参ります。今後とも御指導御鞭撻を賜れますよう、どうか宜しくお願い申し上げます。



旭川医科大学

白坂 知識

2020年4月から旭川医科大学心臓外科で御世話になっています2004年卒の白坂知識と申します。10代は鹿児島で育ち、大学は関西（大阪・神戸と2回）、大学院卒業後に2年半臨床留学後2018年に帰国しました。留学中は主に僧帽弁形成術を勉強していましたが、帰国後は心臓低侵襲手術への関心が強くなり、現在は紙谷教授ならびに循環器内科の皆様にご指導をいただいています。旭川は夏の爽やかな気候・冬の美しい雪景色とパウダー

スノーが本当に素晴らしいと感じています。

一方でコロナ禍を経験し、旭川医科大学がいかに地域の中核病院として期待されているかを痛感しました。その期待に応えられるよう日々自己研鑽していかねば、と思います。

同門の皆様、今後とも御指導・御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



旭川医科大学

市川 洋平

2020年4月から1年間、国内臨床留学で血管外科にお世話になっております、杏林大学心臓血管外科の市川洋平と申します。

特にCLTI（包括的高度慢性下肢虚血）の診療において国内外含め有数の施設とあり、こちらに来る前は期待と共に大きな不安を胸に秘めておりましたが、東教授をはじめ医局員の皆様のおかげで、東教授のご指導のお陰様で大変有意義な時間を過ごすことができました。

また、生まれも育ちも東京で、狭い空に慣れ、雪も数えるほどしか見たことのなかった私たち家族にとって、北海道での暮らしは四季を通じて感動の連続であり、プライベートにおいてもかけがえのない時間となりました。



今後は東京に戻る予定でございますが、臨床・研究ともにご指導いただいた日々と旭川、北海道の素晴らしい自然の光景を胸に精進を続けてまいります。今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

名寄市立総合病院（3年目）

瀬戸川 友紀

卒後3年目の瀬戸川友紀と申します。現在は名寄市立総合病院で1歳の息子の育児と仕事の両立に奮闘しておりますが、なかなか思い通りにはいかず、先生方にはご迷惑をおかけする日々です。自分の甘さや未熟さに嘆息し、逃げ出したくなる日もあります。夫の協力や先生方の温かな心遣いに支えられ、どうにか続けられております。

思い描いていた「天才心臓外科医」とは程遠いですが、ようやく夢のスタートラインに立てたことを心から嬉しく、誇りに思います。良い心臓外科医になれるよう、日々感謝を忘れず、努力いたします。何卒よろしくお願ひいたします。



旭川医科大学（1年目）

松井 拓郎

旭川医科大学研修医一年目の松井拓郎と申します。振り返りみると小学生の時、母の余命宣告をきっかけに医師を目指し始めました。それから15年程経ち、今こうして医師として働いていることに非常に感慨深いものがあります。まだまだ未熟ですが、ひとつひとつ経験と知識を重ねて、理想の医師像に近づけるよう努力します。今後の目標は、余命宣告から奇跡的に生還した今年59歳の母の禁煙成功です（もう100回くらい禁煙失敗中）。

最後に人見知りで口数少ないですが、いろんな人と関わって楽しくできたらと思ひます。今後ともよろしくお願ひします。写真は去年国家試験浪人が決まる数日前の浮かれてる写真です。趣味は旅行と料理と家事です。



札幌東徳洲会病院（1年目）

中坪 正樹



はじめまして。旭川医科大学第42期卒業の中坪正樹と申します。現在は札幌東徳洲会病院で1年目初期臨床研修をさせていただいております。初めての病院での業務と慣れない札幌暮らしに戸惑いながらも、とても充実した日々を過ごしております。生憎のCOVID-19の感染拡大にて大学病院の先生方にはご挨拶ができずに1年が経過してしまい、大変残念に思っております。以前よりダイナミックかつ繊細な外科手術には興味を持っておりましたが、実際に働く中でよりその難しさ、面白さ、やりがいを知り、不透明だった将来を少しずつ見据えることができしております。医師としてのしっかりとした基盤を作れる様、より多くのことを吸収して初期研修を終えたいと思っております。何卒、ご指導、ご鞭撻の程よろしくお願ひ申し上げます。

札幌東徳洲会病院（1年目）

吉野流世



凜とした冷たい空気に、風花が美しく輝くこの頃、AMUSE会員の皆様にはご清祥のことと存じます。

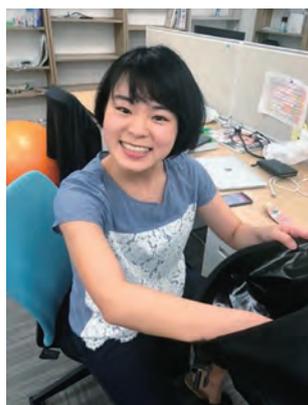
札幌東徳洲会病院で研修をしている初期研修1年目の吉野流世と申します。COVID-19の影響もあり先生方の元へ挨拶に行けず、大変申し訳ございません。この場をお借りしてご挨拶とさせていただきます。簡単にですが、現状のご報告をさせていただきたいと思います。これまで麻酔科、救急科、消化器内科、循環器内科、整形外科、外科、総合診療科をローテしてきました。まだまだ未熟な内科・救急管理も、来年はさらに磨きをかけていきたいと思っています。外科志望なので外科の話を中心にさせていただくと、初めてタイムアウトする時、メスで皮膚に切開を入れた時のワクワク感が今もまだ残っています。手術の魅力、楽しさをより一層実感することができたローテでした。ただ、術後管理という側面にほとんど触れることができず、2年目の選択期間では1年目でできなかった術後管理の勉強をしていきたいと思っています。

3年目からは大学に戻ります。先生方にはたくさんのご迷惑をお掛けすると思いますが、どうぞ宜しくお願い致します。

亀田総合病院（1年目）

青木沙弥佳

初めまして、2020年旭川医科大学卒、現在亀田総合病院にて初期研修医1年目の青木沙弥佳と申します。働き始めて1年目、ゼロからの始まりですが仲間と協力しながら毎日頑張っております。もはや院内で髪を切る様に



なっていました。（写真はカット後に研修同期が撮った写真です）将来、外科医として人の役に立てる人間になれる様に精進して行きたく存じます。今後ともご指導よろしくお願い申し上げます。

旭川医科大学（1年目）

廣上翔

旭川医科大学病院研修医1年目の廣上翔（ひろかみしょう）と申します。札幌市で生まれ札幌西高校を卒業したのち、一旦は神奈川県洗足学園音楽大学という音楽大学に



進学（専攻は音響と作曲）しましたが、医師になりたいと思い旭川医科大学に入学しました。大学2年生の頃から外科への関心があり、ワークショップ等に参加するうちに心臓外科医への憧れが確実なものとなっていきました。そして大学5年生の冬に心臓外科に入局させて頂きました。頭もメスも切れる外科医を目指します。車と猫と魚（飼ったり見たりする方）が好きです。最近、可愛がっていたミドリフグが死んでしまい少し落ち込んでいます。宜しくお願い致します。

製鉄記念室蘭病院（1年目）

横山倫之

製鉄記念室蘭病院で1年目初期臨床研修医として研修させていただいております横山倫之と申します。私は5年生の時に血管外科で臨床実習をさせていただき、同年のHOPESでは学生発表もさせていただくなど血管外科の先生方に大変お世話になりました。そして血管外科に強い興味を抱き、6年生のアドバンス実習では名寄市立総合病

院や芽室公立病院、札幌厚生病院など大学以外の病院での心臓血管外科での実習をさせていただき、私は血管外科医になりたいと強く感じました。他の科での実習を終えた後もその気持ちは変わらなかったため、6年生でAMUSEへの入局をさせていただきました。

現在は多くの同期や親身になって御指導して下さる先生方に恵まれ、コロナ禍ではありますが充実した研修をさせていただいております。

研修医2年目は旭川医科大学病院に戻り、消化器外科・小児外科・呼吸器乳腺外科など多くの科で研修をさせていただきます。未熟者ではありますが、ご指導・ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



旭川医科大学病院（1年目）

水島大地

旭川医科大学病院、初期研修1年目の水島大地と申します。医師として働き始めて約1年になりますが、日々新しいことの連続で学ぶことが多い、未熟さをひしひしと感じながらもとても充実した毎日を過ごしております。



昨年8月に血管外科をローテーションしていた

際、稀な総肝動脈瘤の症例に出会い、症例発表や論文執筆の機会をいただき、とても貴重な経験になりました。その時の外科の楽しさが忘れられず、9月に心臓血管外科に入局させていただきました。

できることはまだ限られておりますが、できることからコツコツと、日々精進して参ります。来年度も同院で研修させていただく予定です。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

賛助会員

医療法人社団緑が丘クリニック

河端 聡



2020年4月より前任の高木勇先生から緑が丘クリニックを引き継いだ河端 聡と申します。高木先生からのご縁もあってAMUSEに入会させていただきました。出身は旭川ですが、鹿児島大学医学部医学科卒業です。鹿児島大学卒業後は旭川に戻ってきて、現在に至っています。専門は脳神経内科なので外科の先生方とは畑違いではありますが、今後もAMUSEの先生方と共に旭川の医療の一部を担えたらと思います。今後ともよろしくお願い致します。

編 集 後 記

昨年に引き続き、今年は更に大きく新型コロナウイルスの影響を受け、年報の発行が遅れましたこと、深くお詫び申し上げます。

しかし今回は特に、コロナ禍で大変な中、遠軽厚生病院院長の稲葉 聡先生、釧路孝仁会記念病院心臓血管外科部長の木村文昭先生には、貴重なご経験談をご教示頂き、我々も是非今後活かして参りたいと存じます。心より感謝申し上げます。

編集に際しましては、庄中達也先生、岡崎 智先生、秘書の米谷さとえ様に、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。またこのような重要な任務を任せて頂きました理事、幹事の皆様に深く御礼申し上げます。

次号こそは、BBQなど美酒を片手に盛り上がっている写真などもお載せできるようになることを心より願っております。最後に、あらためまして、皆様のご健康をお祈り申し上げ、編集後記とさせていただきます。

(文責：宮城 久之)



AMUSE年報 第5号

発行 2021年3月31日

編集 一般社団法人 AMUSE
(旭川医科大学外科学講座教育支援機構)

印刷 株式会社あいわプリント